

## 問 5 新幹線開業後の成果と菊池川流域 の振興について

九州新幹線が全線開業し、早いもので1年8カ月が過ぎました。

新幹線開業前には、ストローク現象で福岡に吸い込まれたり、熊本は素通りにされないだろうかと心配する声もありましたが、平成23年、熊本県観光統計によると、東日本大震災や福島第一原発事故により、全国的に旅行の自粛ムードになり、上半期観光客数は前年度を下回りましたが、下半期から新幹線効果が徐々に現れ、観光客数は前年度比1,6%増の5817万人、宿泊費や飲食費等の観光消費額も4,4%増の2720億円で、観光客一人

当たりの消費額も4～5%増になっております。このように、観光客数は増加しており新幹線効果が現れている状況ではないかと思えます。

更に県では、この絶好の機会を生かして、熊本の豊かな自然や景観、多様な文化や歴史、多彩な農林水産物など、その魅力に磨きをかけ推進されています。

菊池川流域には、豊富な温泉、**装飾古墳群などの史跡等**、すばらしい宝が存在をしています。さらに、鞠智城、菊池一族の歴史、そして世界遺産を目指している阿蘇の大自然など、今後の本県における東アジアに向けた観光戦略においても大きな役割を果たすと期待をしております。

このような多彩な宝を生かして、九州新幹線全線開業の効果が最大限に発揮し、県民と行政が一体となり、観光振興に取り組まなければなりません。

特に山鹿市においては、国指定重要文化財の八千代座、山鹿灯籠、近年脚光を浴びている平山温泉、先日オープンしたさくら湯などが新たな観光として注目をされているところでもあります。

こうした中、平成18年、地域振興局管轄を超えて、流域の観光地が連携をした観光協議会として、菊池川温泉郷づくり協議会が設立されました。

その他にも県北観光協議会、菊池川流域連携懇談会が設立され、地域振興、観光振興に資する様々な活動をされており

ます。

私は、このように官民間わず、地域振興、観光振興に取り組んでいる組織の力の活用が必要だと考えております。

そこで、第一点目ですが、100年に一度とも言われた県土飛躍のビッグチャンスである九州新幹線が全線開業し1年8カ月が経過しましたが、新玉名駅を起点とした菊池川流域への観光客誘致をこれまでどのように展開され、今後どのように進められていくのか、また、地域振興、観光振興に広域的に取り組んでいる様々な組織の力をどのように活用していくのか、商工観光労働部長にお尋ねいたします。

二点目に、山鹿灯籠の国の伝統的工芸

品指定についてお尋ねいたします。

山鹿市やお隣の旧三加和町は昔から紙すきの産地でもありました。紙で作った山鹿灯籠・山鹿傘・来民地域で作られている来民うちわなど、紙で作る文化が残っています。和紙文化は加藤清正公が朝鮮に出兵した時に朝鮮から紙すき職人を招いて普及させたと言われていています。今では紙の原料である「こうぞ」を栽培している地域が少し残っているだけで紙すき自体は残っていませんが、そのような紙文化を受けて山鹿灯籠は誕生したのではないかと思います。

伝統的工芸品産地指定は国の指定でありまして、県内における産地指定状況を見てみますと、平成15年3月に天草陶磁器、

小代焼、肥後象がらが、国の伝統的工芸品として指定をされています。

伝統工芸品の国指定を受けるためにはいろいろな条件を満たさなければなりません。これまでさまざまなお尽力を頂いていると思いますが、今後、山鹿灯籠の伝統的工芸品指定に向けての本県の取組み状況と、今後の支援について商工観光労働部長にお尋ねいたします。